

本県の人口減少の現状

三重県

令和4年6月30日

1 これまでの取組

1 これまでの人口減少対策の取組（現状認識と今後の対応）

現状認識と今後の対応

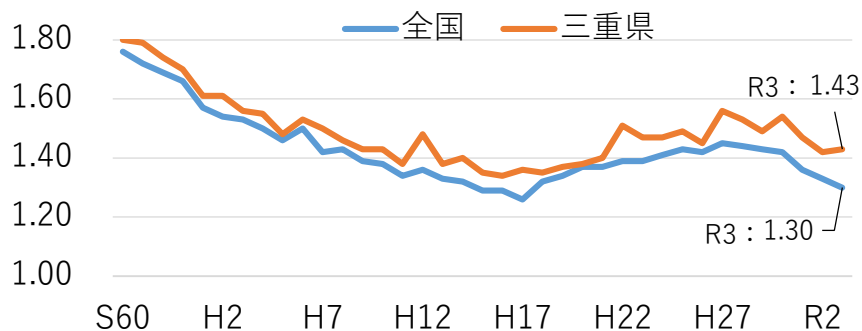
平成27年度から取組を進めてきたが、

（自然減）県の合計特殊出生率：令和2年は1.42⇒「2020年代半ばに、1.8台」の**目標と乖離**

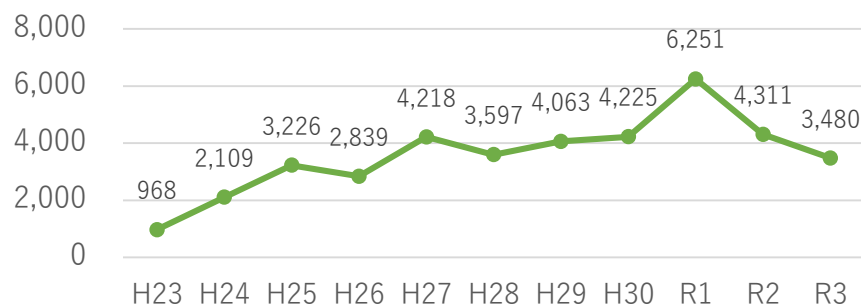
（社会減）県外への転出超過数：令和3年は3,480人

⇒依然として15～29歳の**若者の転出超過が多い**

合計特殊出生率



転出超過数の推移



- 消費の低迷による地域産業の縮小
- 地域産業の縮小に伴う雇用の減少
- 税収減に伴い、公共インフラをはじめとする社会資本の維持が困難
- 人口の流出や高齢化等による都市や集落の機能低下

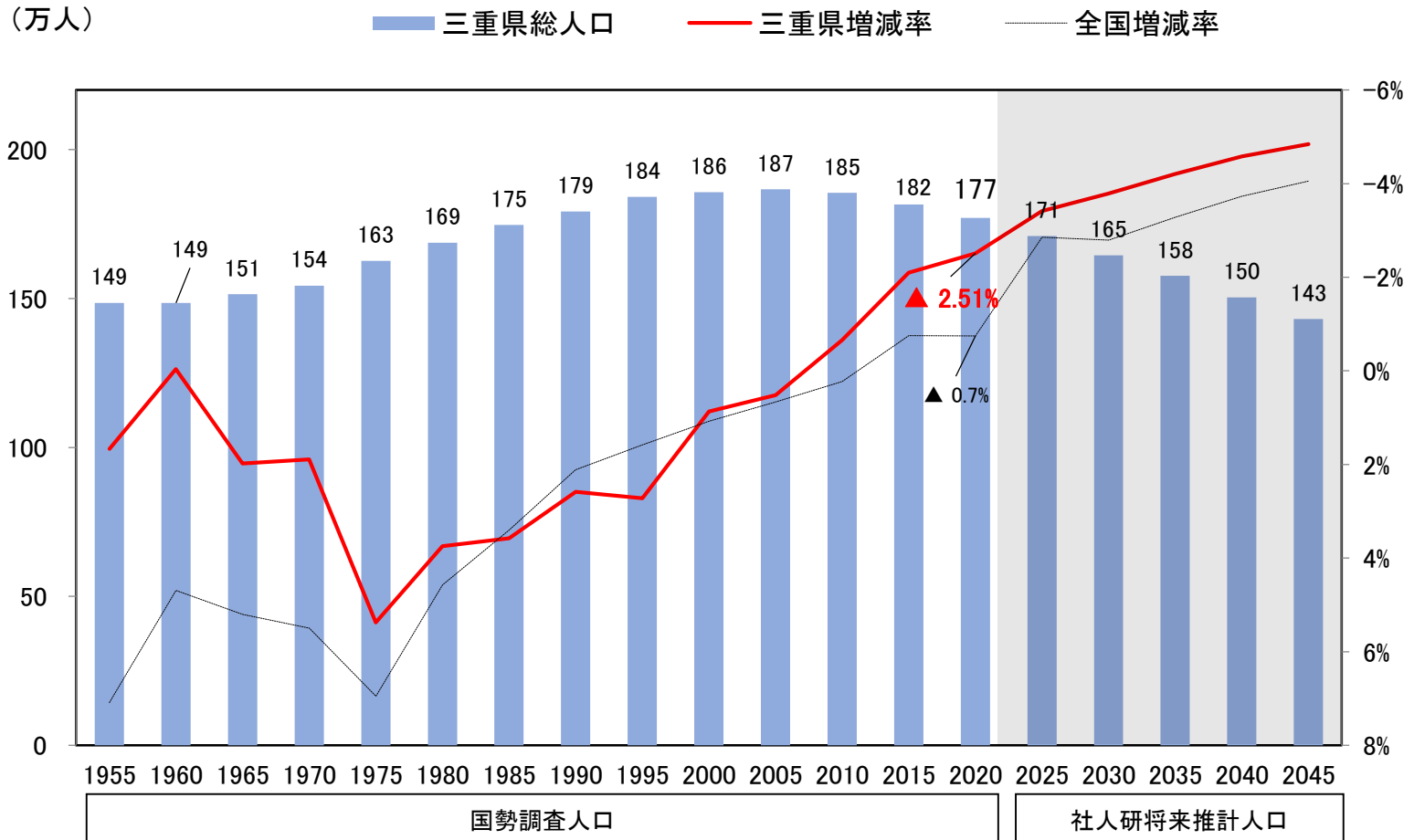


選ばれる三重をめざして、

- 令和4年度から人口減少対策に係る体制を整備し、取組を強化
- 自然減対策、社会減対策を両輪として取組を推進
- 過疎化・高齢化等に伴う人口減少の影響を緩和

2 人口減少の現状と展望 ～国勢調査による三重県人口と増減率の推移～

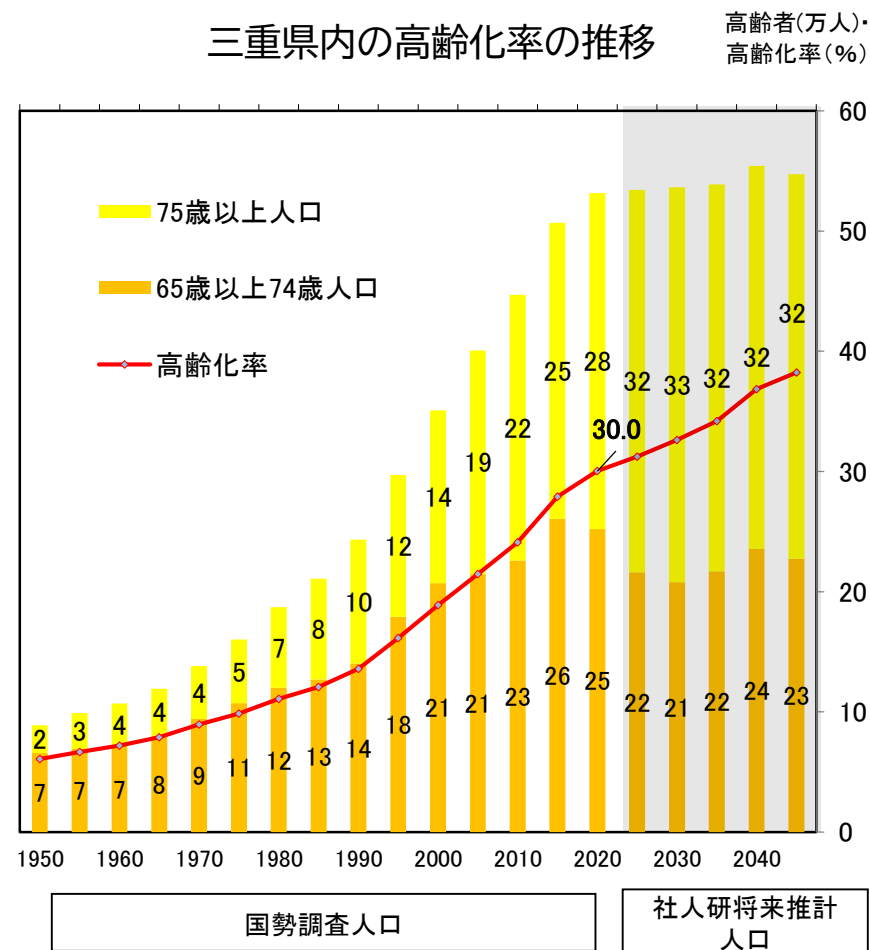
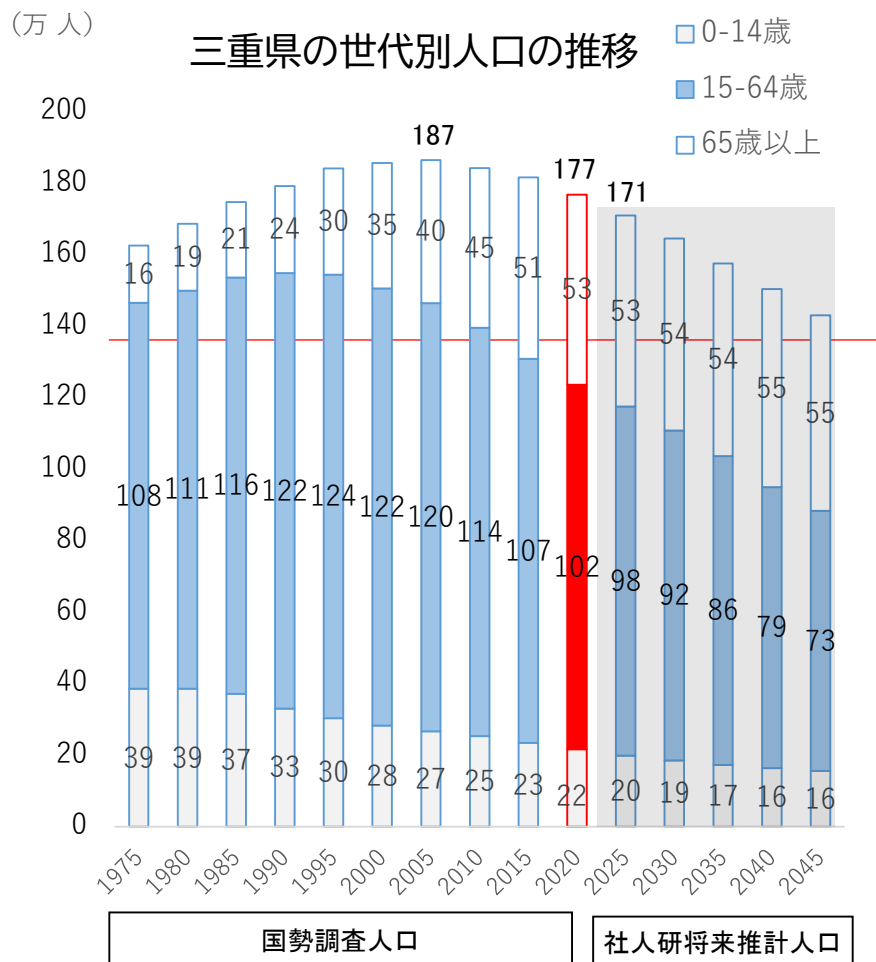
- ・ 2020年（令和2年）国勢調査結果では、三重県の総人口は177万254人。
- ・ 前回調査に比べ約4万6千人の減少、減少率は過去最大の2.5%。
- ・ 2020年以降も全国の減少率を上回るペースで人口減少が推移する見込み。



2020年までの人口は国勢調査、2025年以降の人口は社人研推計値

2 人口減少の現状と展望 ～生産年齢人口の減少と高齢化～

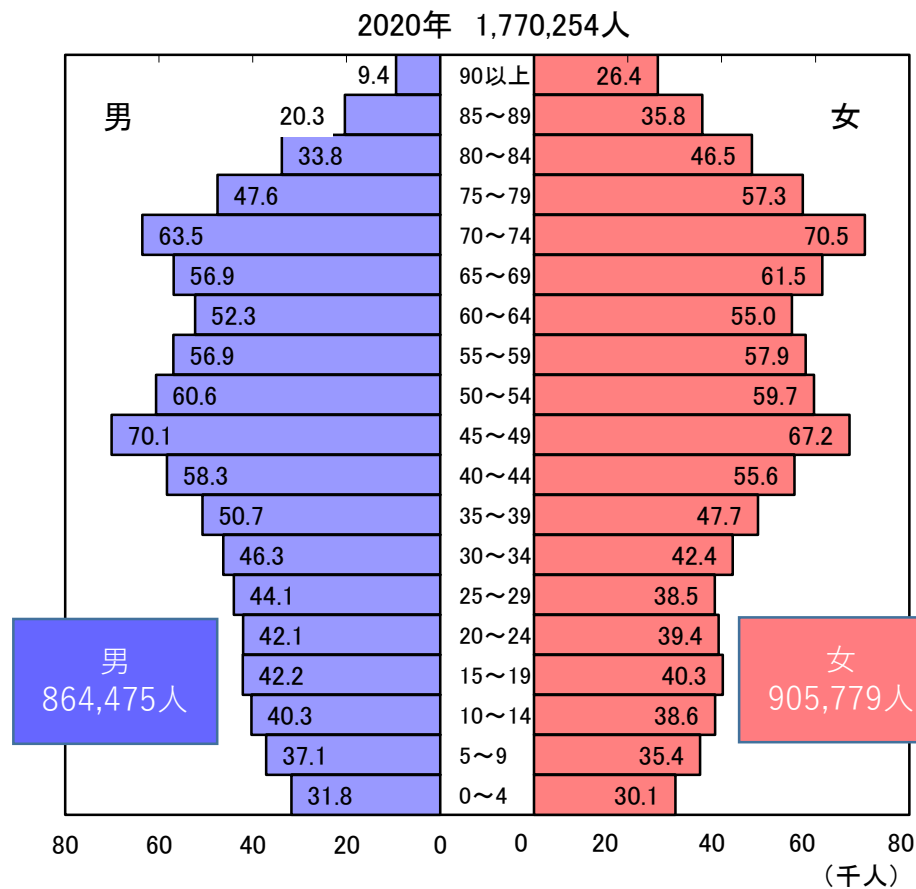
- ・ 2030年の総人口は1975年頃と同程度。一方、**高齢者数は3倍以上**となる見込み。
- ・ 高齢化率は増加の一途をたどり、特に後期高齢者となる75歳以上人口が増加。



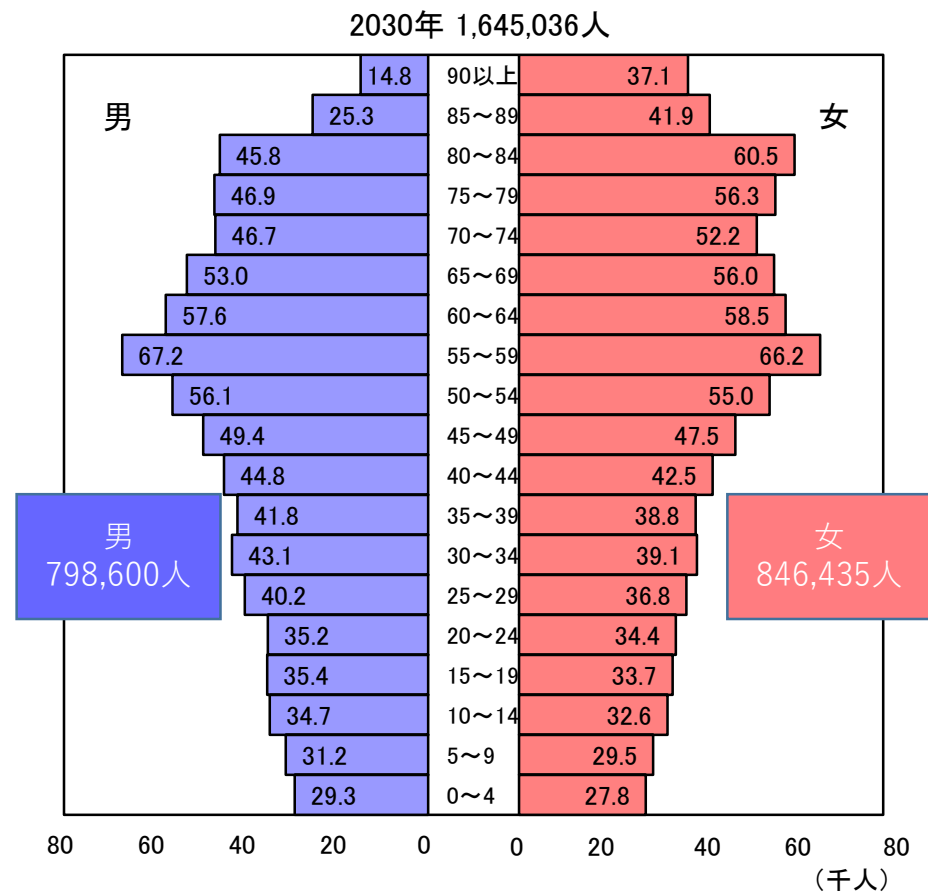
2020年までの人口は国勢調査、2025年以降の人口は社人研推計値

2 人口減少の現状と展望 ～三重県の2030年の世代別人口～

- ・ 2030年の世代別人口構成では男女ともに50代が最も多い。



(参考) 2020年国勢調査結果

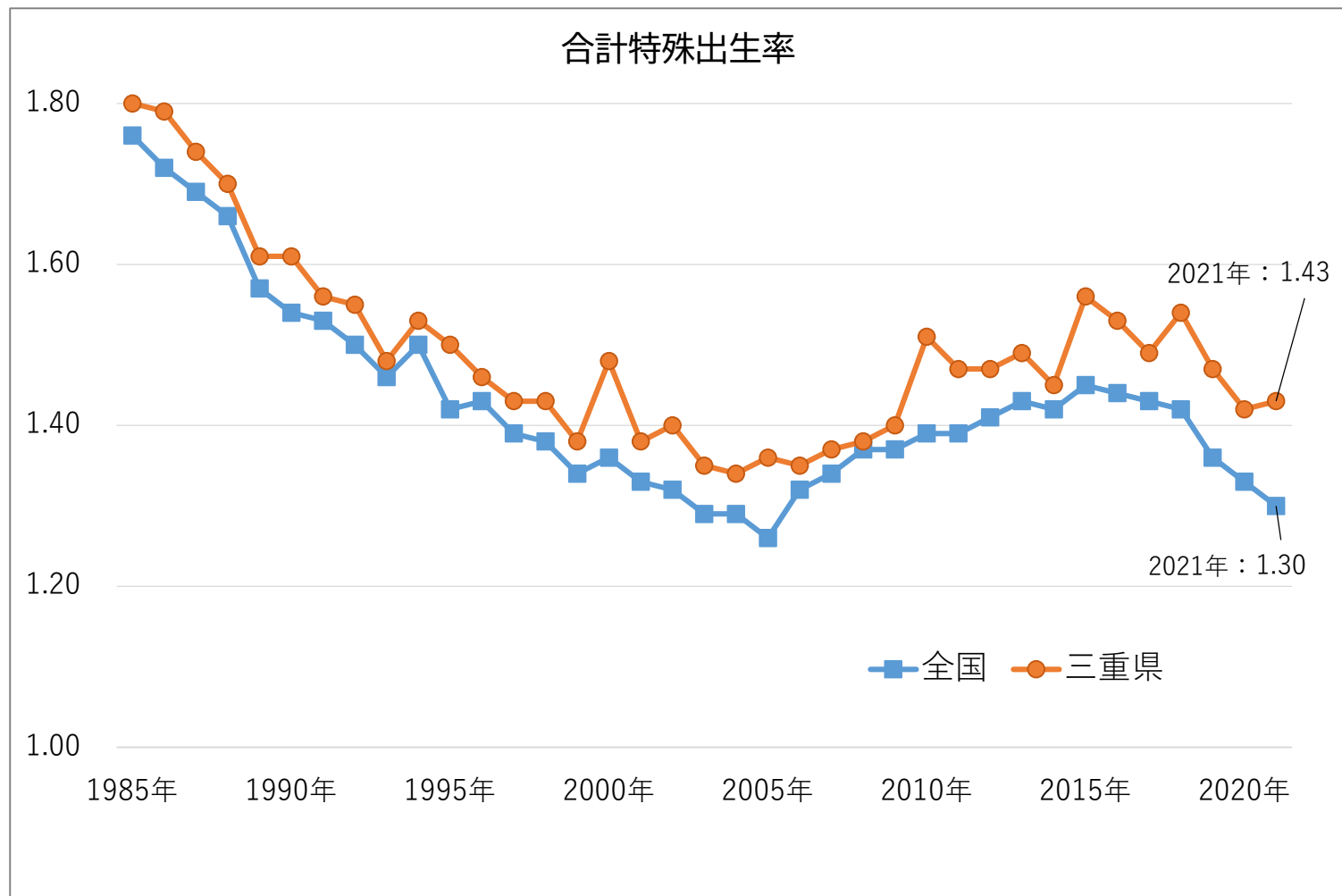


(参考) 社人研推計

2 自然減の現状

2(1)人口減少の現状と課題(自然減)～合計特殊出生率の推移～

三重県の合計特殊出生率は全国値よりは高いものの、近年低下している。

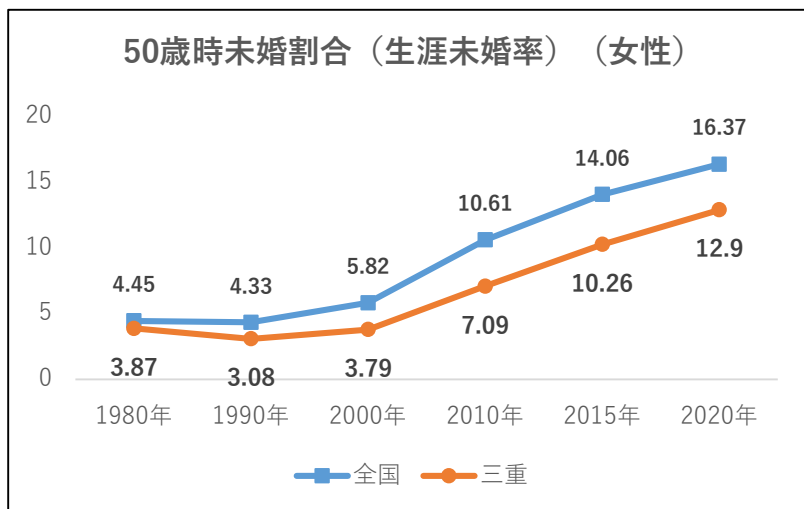
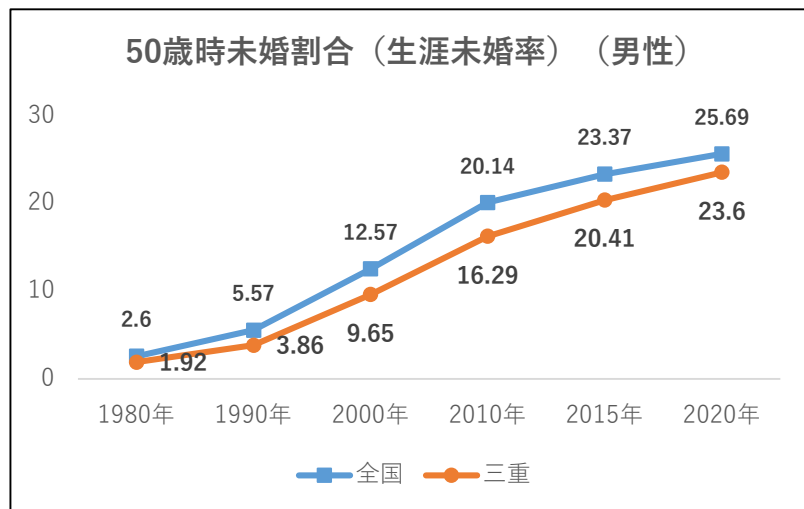


厚生労働省「人口動態統計」による

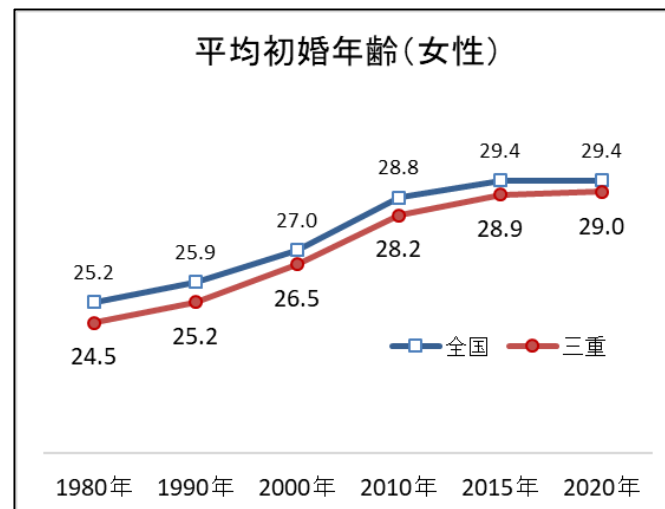
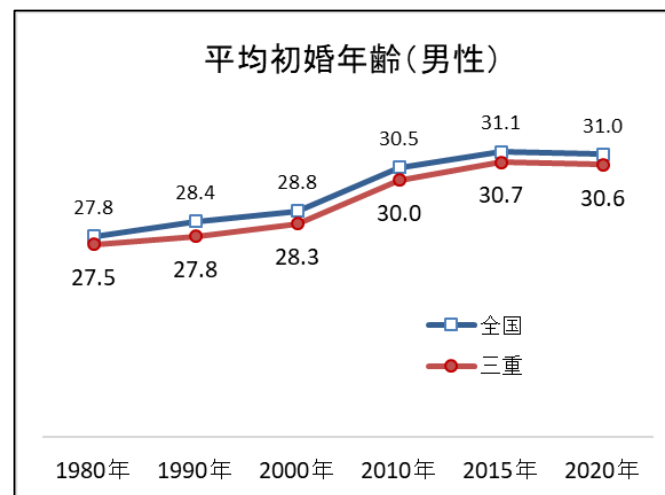
2(1)人口減少の現状と課題(自然減)～未婚割合の増加と晩婚化～

- ・ 県内の50歳時未婚割合は上昇傾向。2020年時点で男性で4人に一人、女性で8人に一人が未婚
- ・ 平均初婚年齢は近年横ばい

①50歳時未婚率の推移【国勢調査】



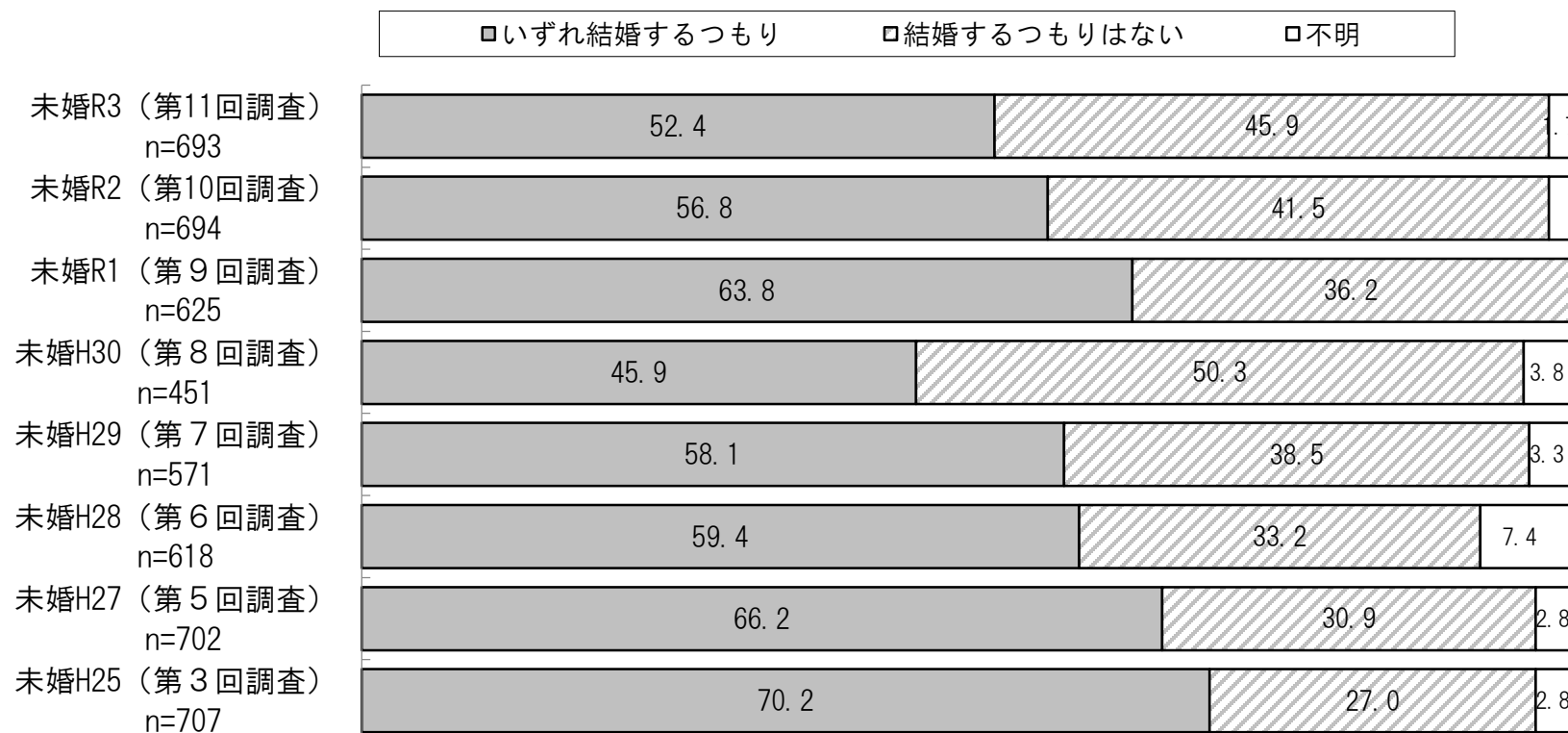
②平均初婚年齢の推移



2(1)人口減少の現状と課題(自然減)～結婚に対する意識～

- ・令和3年度に実施した「第11回みえ県民意識調査」では、県内の未婚者の52.4%が「いずれ結婚するつもり」と回答。
- ・調査開始以降「いずれ結婚するつもり」の割合が減少傾向

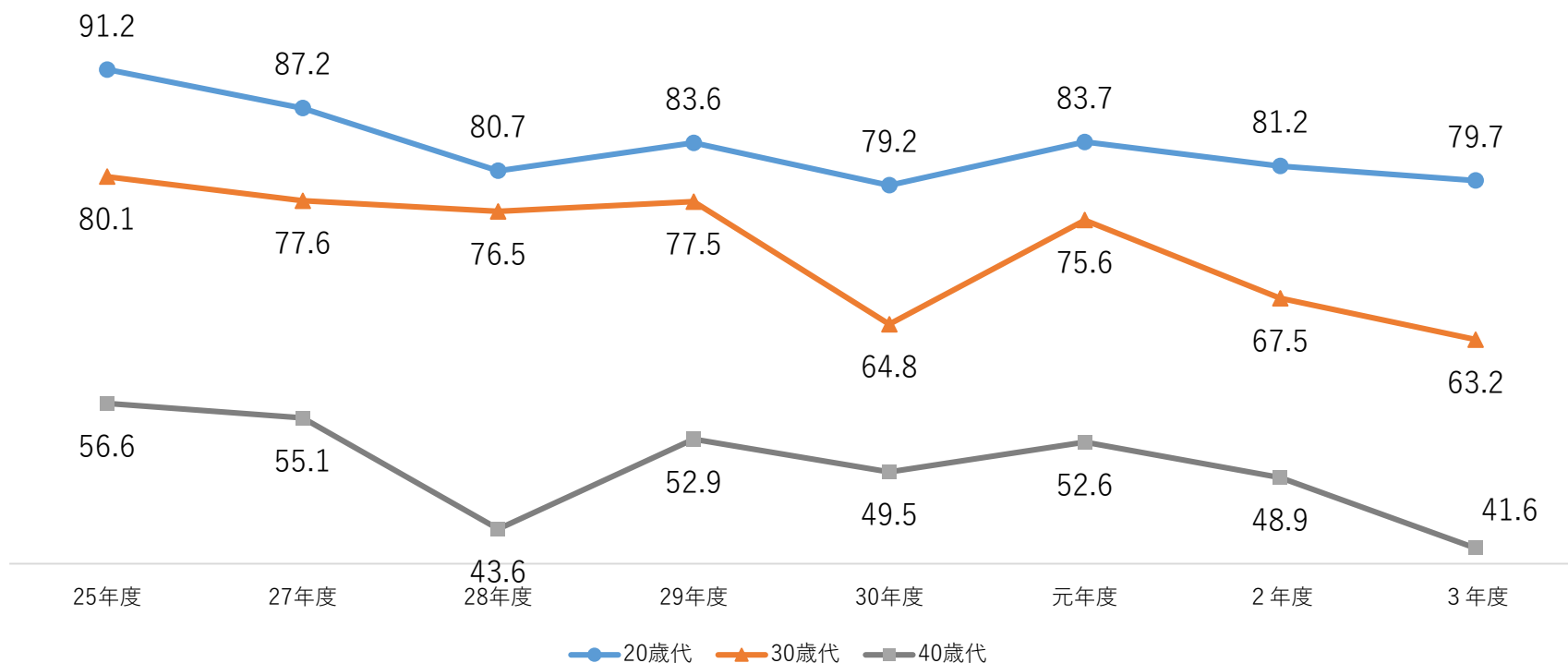
「第11回みえ県民意識調査 集計結果報告書」より一部抜粋



2(1)人口減少の現状と課題(自然減)～結婚に対する意識の変化～

- ・年代別に見ると、平成25年度と令和2年度との比較では、「いずれ結婚するつもり」の回答割合は、三重県内の20～40代のどの世代でも低下
- ・20代では一定の割合で結婚の意思があっても、年代が高くなると低くなる

「いずれ結婚するつもり」回答者の割合



「みえ県民意識調査」による

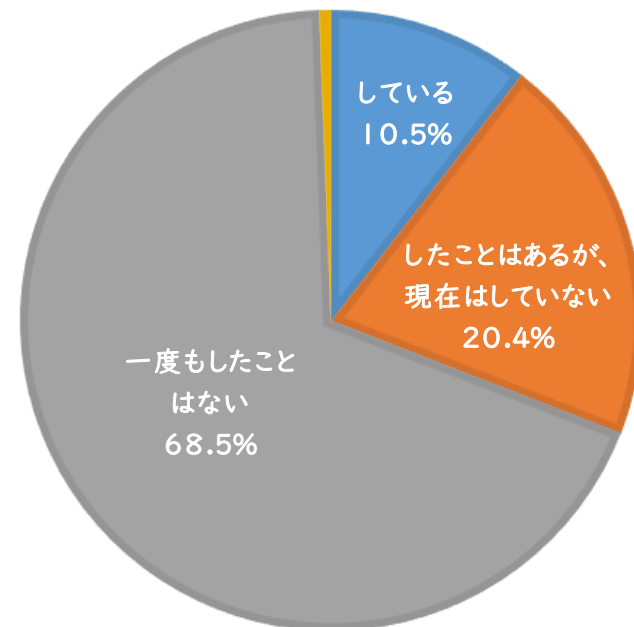
2(1)人口減少の現状と課題(自然減)～結婚に対する意識の変化～

- ①三重県調査によれば、
現在、結婚をしていない理由：出会いがない、理想の相手に出会えていない
②結婚相手に会うための活動をしている人は少ない状況。

①現在、結婚をしていない理由

出会いがない	44.2
理想の相手に出会えていない	39.8
結婚するのはまだ早い	35.8
収入が少ない	26.6
自分に自信が持てない	25.0
自由な生活を失いたくない	24.5
仕事が忙しい	19.3
金銭的に不自由になる	15.8
仕事が不安定	9.1
キャリアアップの障がいになる	2.8

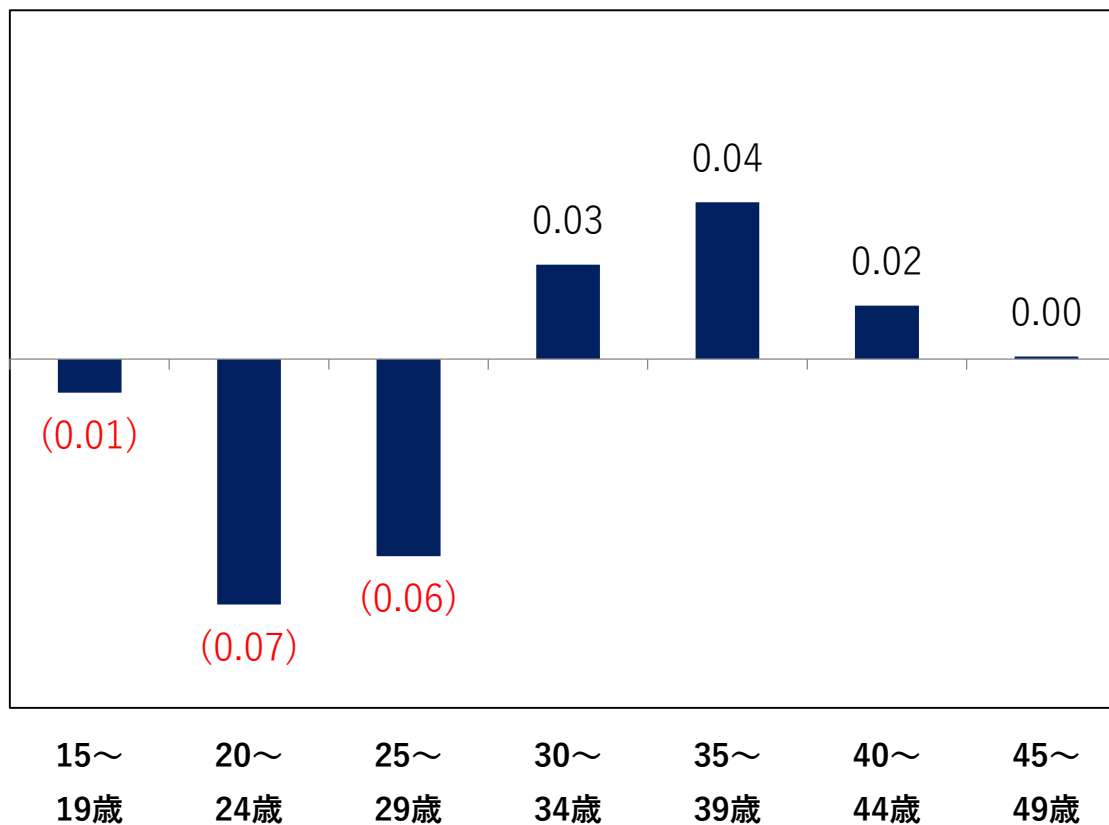
②結婚相手に会うための活動(婚活)の状況



2(1)人口減少の現状と課題(自然減)～晩産化の状況～

令和元年と平成22年の合計特殊出生率を比較すると、20代の出産が減少し、30代の出産が増加している。

三重県の女性年齢（5歳階級）別にみた合計特殊出生率の増減
（令和元年－平成22年）

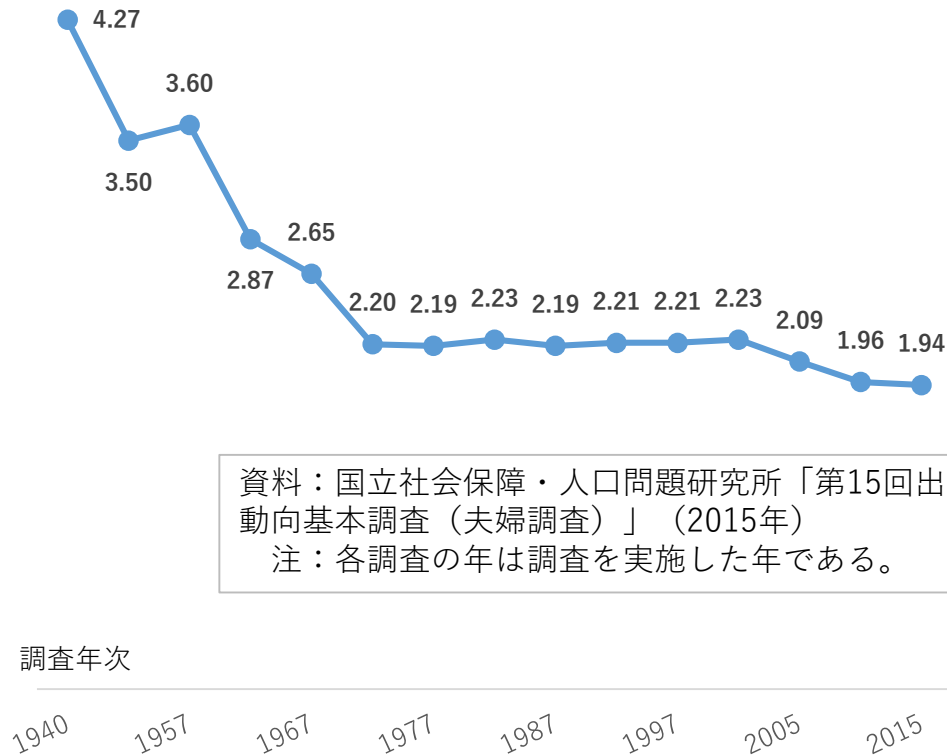


2(1)人口減少の現状と課題(自然減)～夫婦の完結出生児数の推移～

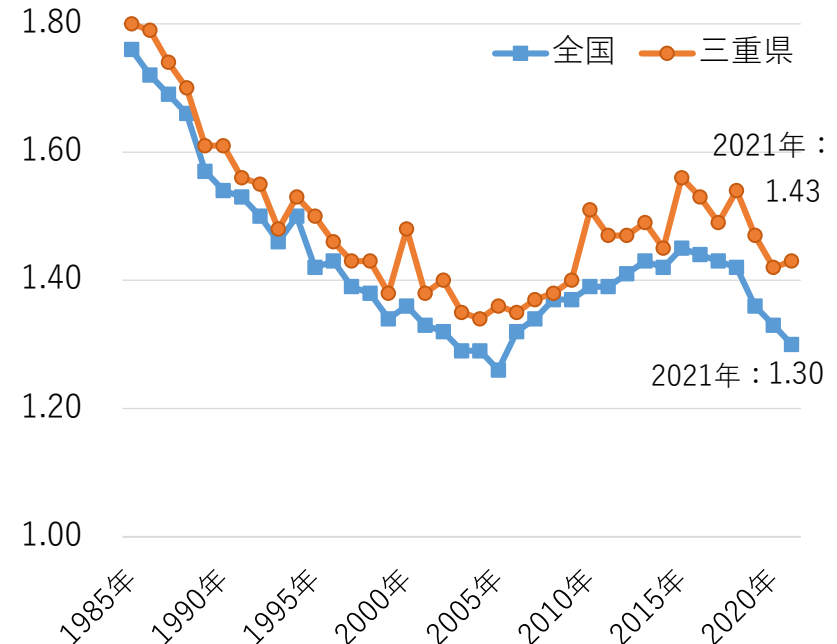
夫婦の完結出生児数(全国値) ※を見ると

- ・ 過去50年は約2人を維持
- ・ 加えて、1970年代以降、2.2人前後で推移してきたが2000年代から減少傾向

夫婦の完結出生児数



合計特殊出生率



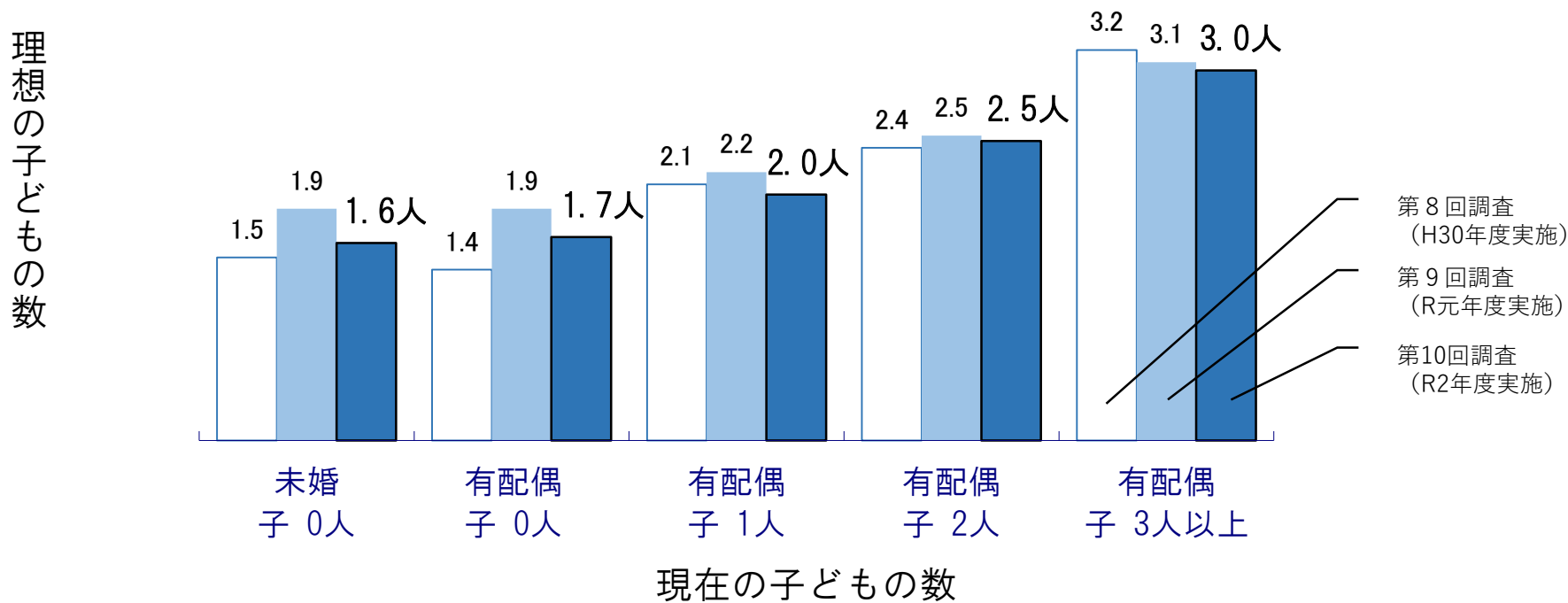
厚生労働省「人口動態統計」による

※夫婦の完結出生児数＝最終的な出生子ども数(この調査では、結婚持続期間(結婚からの経過期間)15～19年夫婦の平均出生子ども数を夫婦の最終的な平均出生子ども数とみなしている。)

2(1)人口減少の現状と課題(自然減)～県内の子どもの数の理想と現実～

理想とする子どもの数と実際の子どもの数にはギャップがある。
令和2年度に実施した「第10回みえ県民意識調査」によると、
18歳以上から40歳代の現実の子どもの数と理想の子どもの数を比較すると、その差は
子どもがいない人では1.6～1.7人、
子どもが1人の人では1.0人、
子どもが2人の人では0.5人となっている。

県内の現実の子どもの数と理想の子どもの数の比較



2(1)人口減少の現状と課題(自然減)～ギャップが生じる理由～

○子育てにお金がかかると感じる人は、実際の子どもの数が多いほど割合が高い

・「子育てや教育にお金がかかりすぎる」を選んだ割合は、実際の子どもの数が2人の場合、男性では84.8%、女性では84.1%、実際の子どもの数が3人以上の場合、男性では88.2%、女性では91.4%。

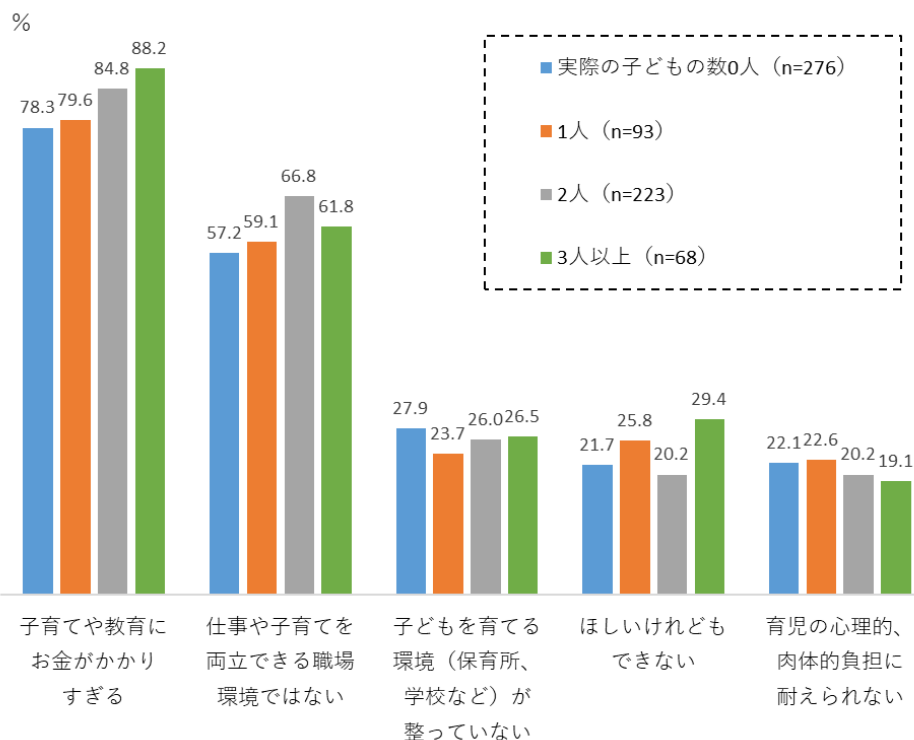
○職場環境や子育て環境、育児負担などについて、男性よりも女性の方が問題があると感じている人が多い

・「仕事と子育てを両立できる職場環境ではない」を選んだ割合は、実際に子どもがいない場合、男性では57.2%、女性では68.6%となり、11.4ポイントの差。

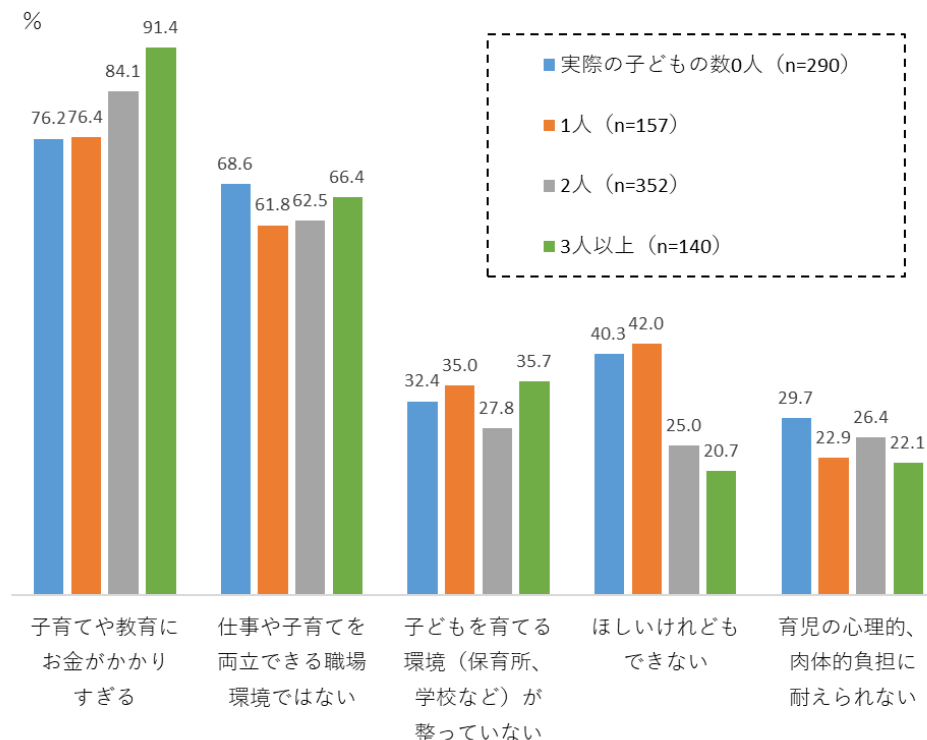
・「ほしいけれどもできない」を選んだ割合は、実際に子どもがいない場合、男性では21.7%、女性では40.3%となり、18.6ポイントの差。

・すべての子どもの数において、「育児の心理的、肉体的負担に耐えられない」を選んだ割合が、女性のほうが男性より上回っている。

男性

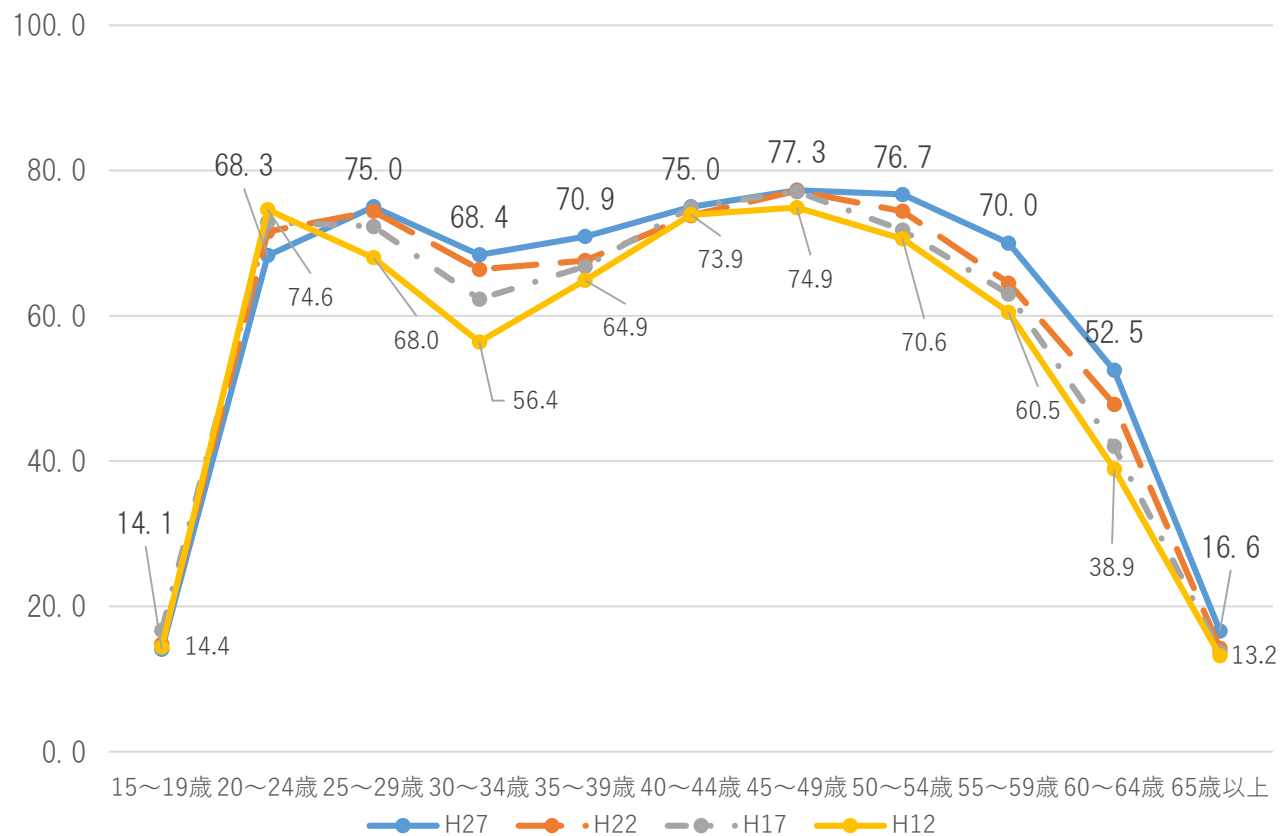


女性



2(1)人口減少の現状と課題(自然減)～M字カーブ～

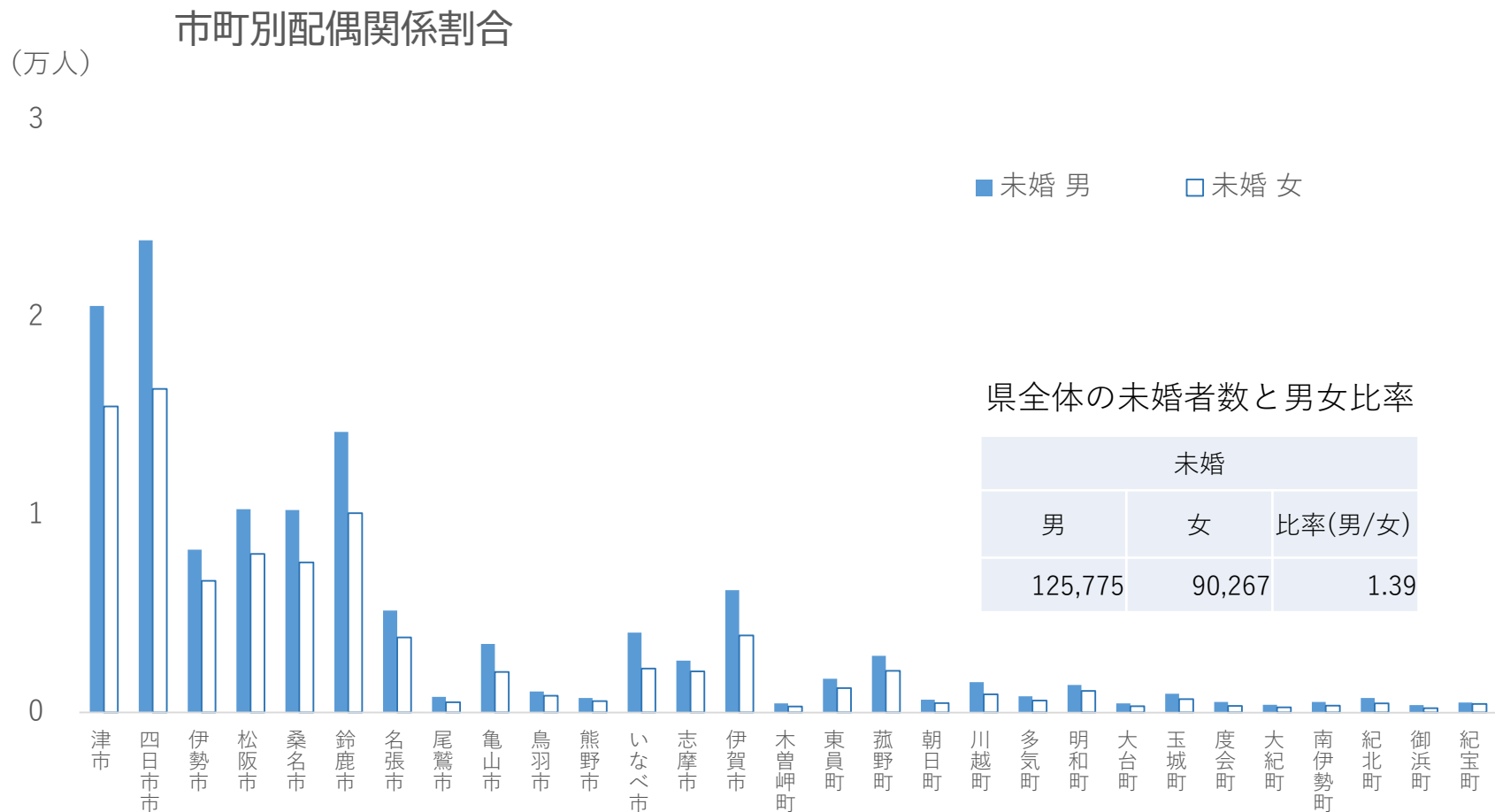
三重県の女性の年齢階級別労働力率の推移を見ると、M字の谷の部分が年々浅くなっている。



2000年（平成12年）から2015年（平成27年）国勢調査により三重県作成

2(1)人口減少の現状と課題(自然減)～市町別の未婚男女の割合～

県内の未婚の20～49歳の男女比率を見ると、どの市町においても、男性が女性より多く、未婚の男/女比率が1を超えている。三重県全体では男：女=1.39：1。

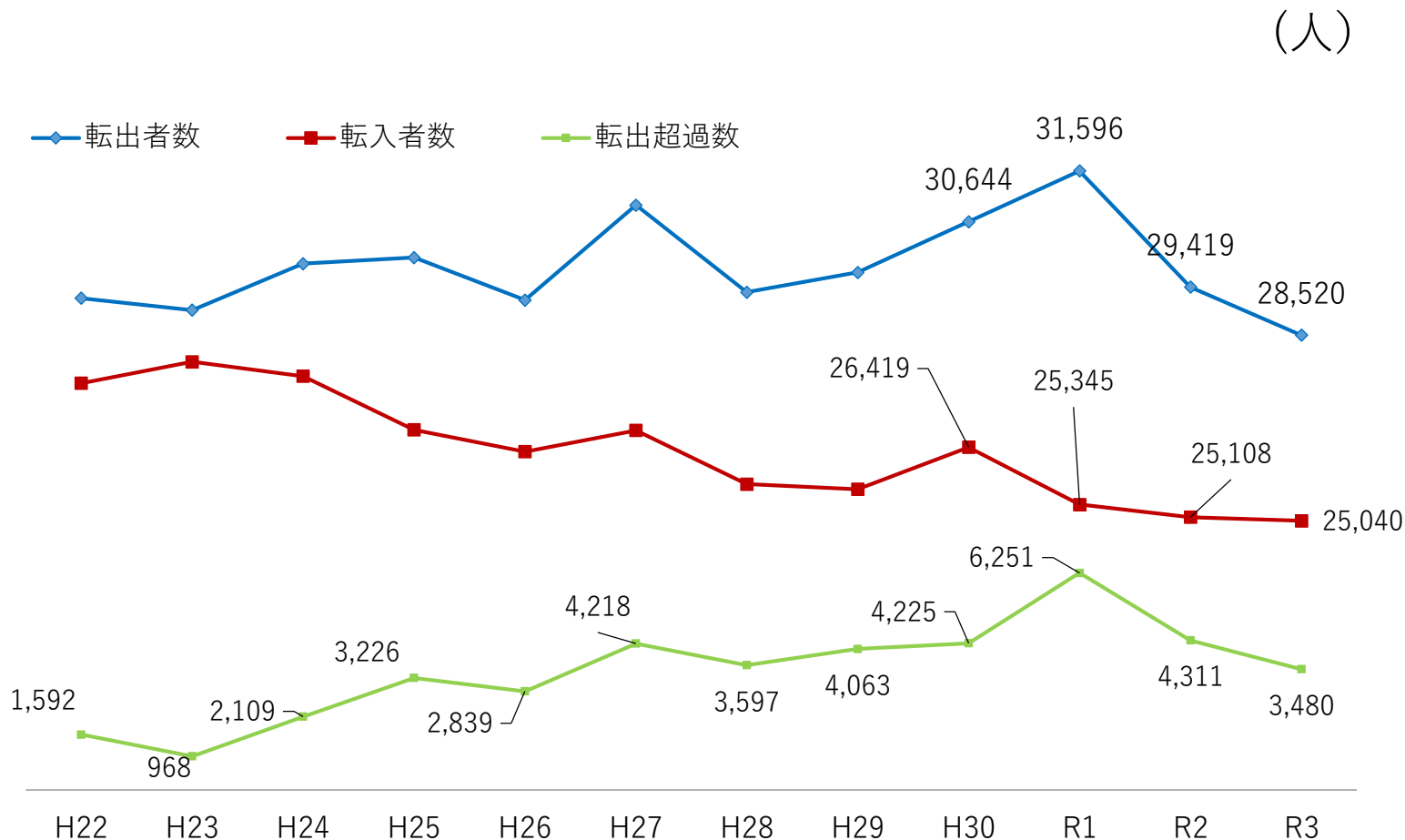


2020年（令和2年）国勢調査結果により、三重県少子化対策課で作成

3 社会減の現状

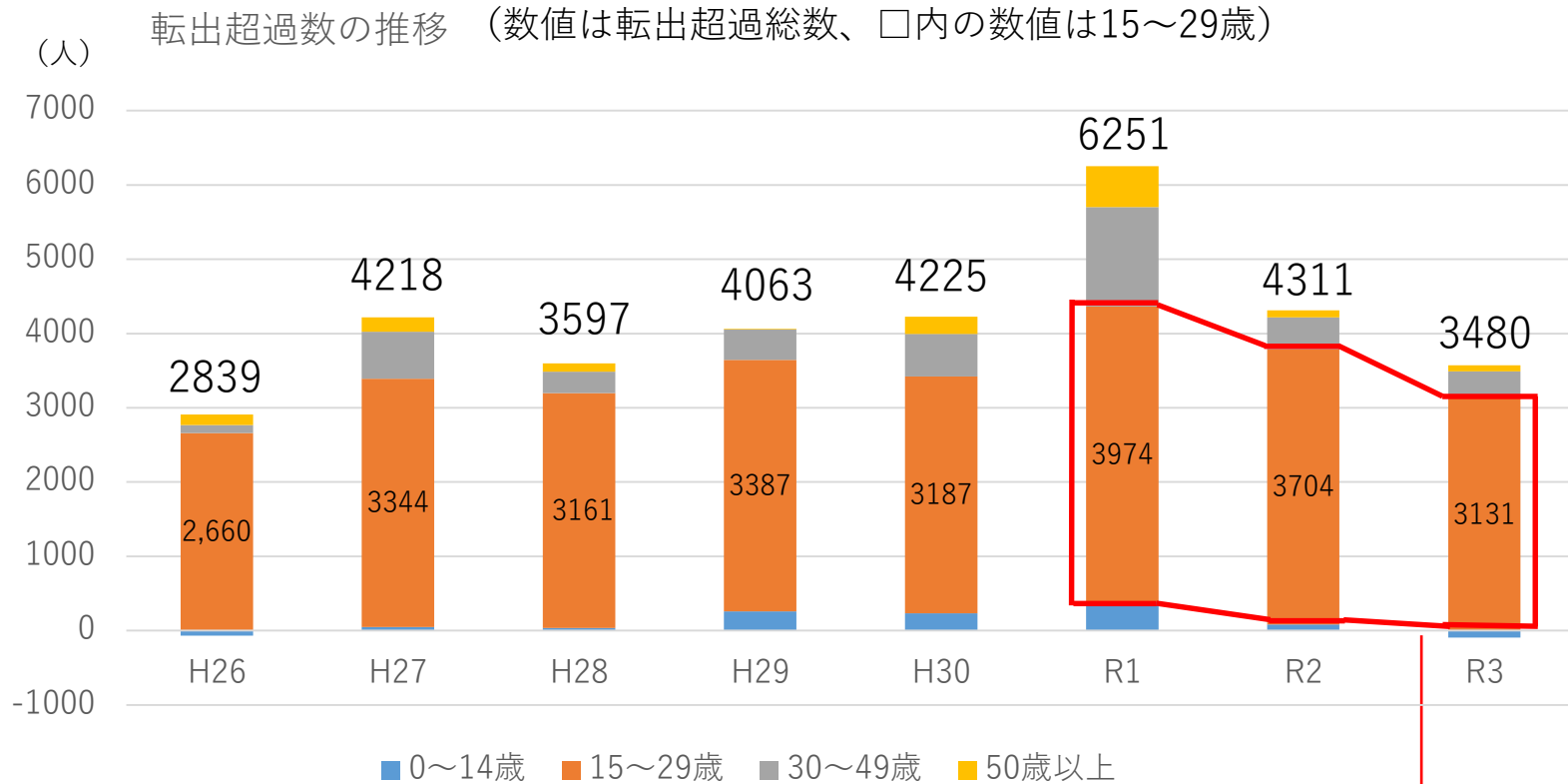
3(1)人口減少の現状と課題(社会減) ～転出入の推移～

- ・平成27年度から取組を進めているが、転出超過数は増加傾向にある。
- ・転出者数は変動は大きいものの横ばい。転入者数は減少傾向にある。



3(1)人口減少の現状と課題(社会減) ～県内性別・年齢別転出超過の状況～

転出超過数は増加傾向
 転出超過数に占める若者の割合は75～85%と非常に大きい。
 特に20～24歳の女性の転出が多い



15～29歳の転出超過数の男女構成

総務省「住民基本台帳人口
 移動報告」による

	男R1	男R2	男R3	女R1	女R2	女R3
15～19歳	384	458	421	388	290	399
20～24歳	676	721	648	1384	1272	1130
25～29歳	494	436	147	648	527	386

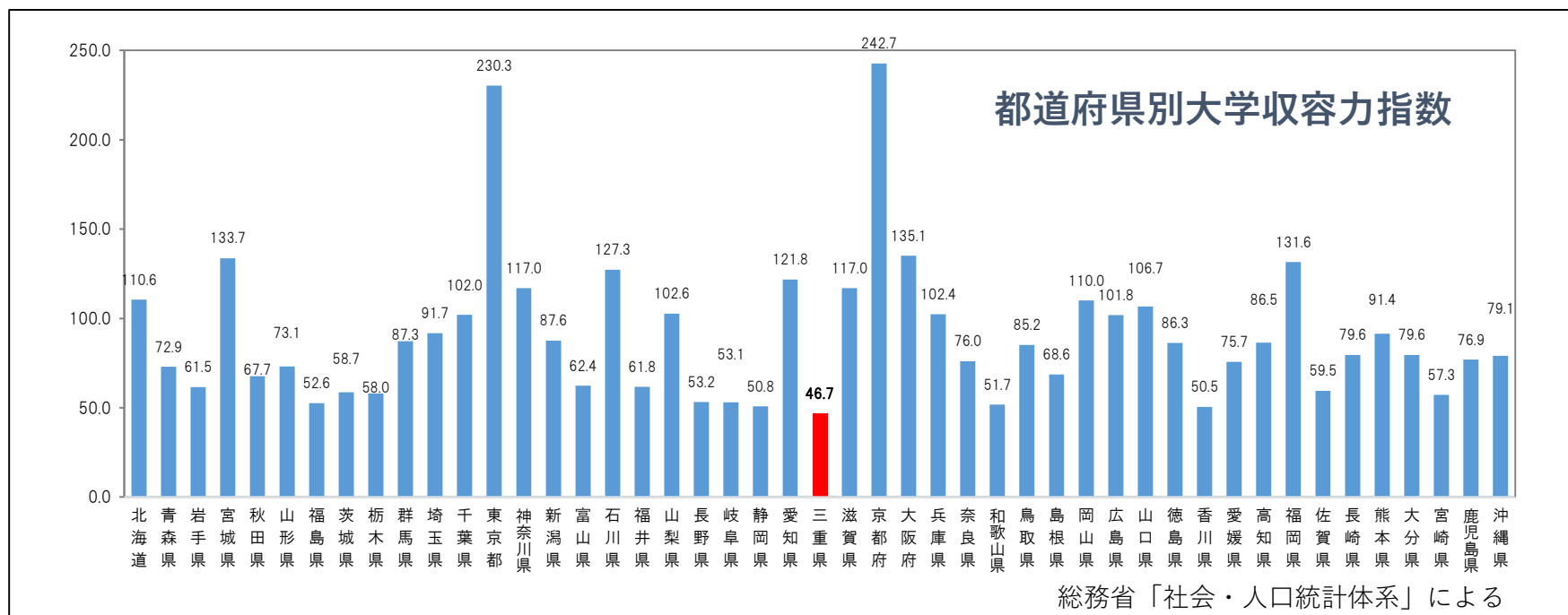
3(1)人口減少の現状と課題(社会減) ～大学収容力～

- ・ 県内高校卒業生が県内大学に進学する割合は約2割。約8割は県外の大学に進学。
- ・ なお、三重県出身者の進学先上位5都府県、愛知、三重、大阪、京都、東京は、ここ数年変化なし。(右表)
- ・ 県内の大学進学者数に対する県内大学入学者数の比率(大学収容力指数)は、令和2年度(令和2年4月入学)本県46.7で最下位。

三重県出身者の主な大学進学先

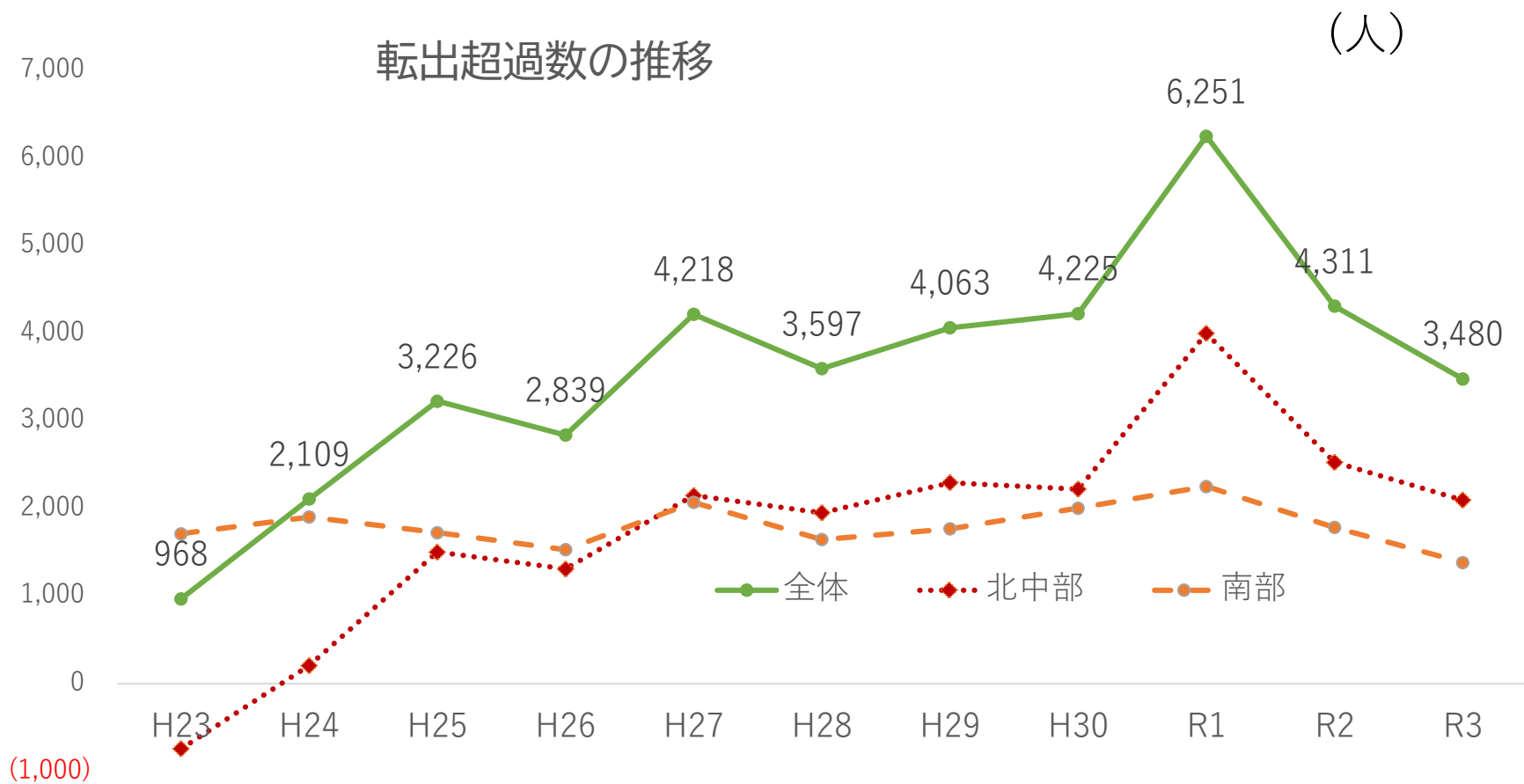
都道府県	H28	H30	R2
1 愛知県	3,207 38.6%	2,973 37.7%	2,996 37.5%
2 三重県	1,704 20.5%	1,720 21.8%	1,751 21.9%
3 大阪府	664 8.0%	577 7.3%	631 7.9%
4 京都府	498 6.0%	475 6.0%	470 5.9%
5 東京都	523 6.3%	469 6.0%	454 5.7%
上記以外の道県	1,703 20.5%	1,663 21.1%	1,683 21.1%
合計	8,299 100.0%	7,877 100.0%	7,985 100.0%

文部科学省「学校基本調査」をもとに三重県戦略企画部作成



3(1)人口減少の現状と課題(社会減) ～転出超過の状況(北中部・南部)～

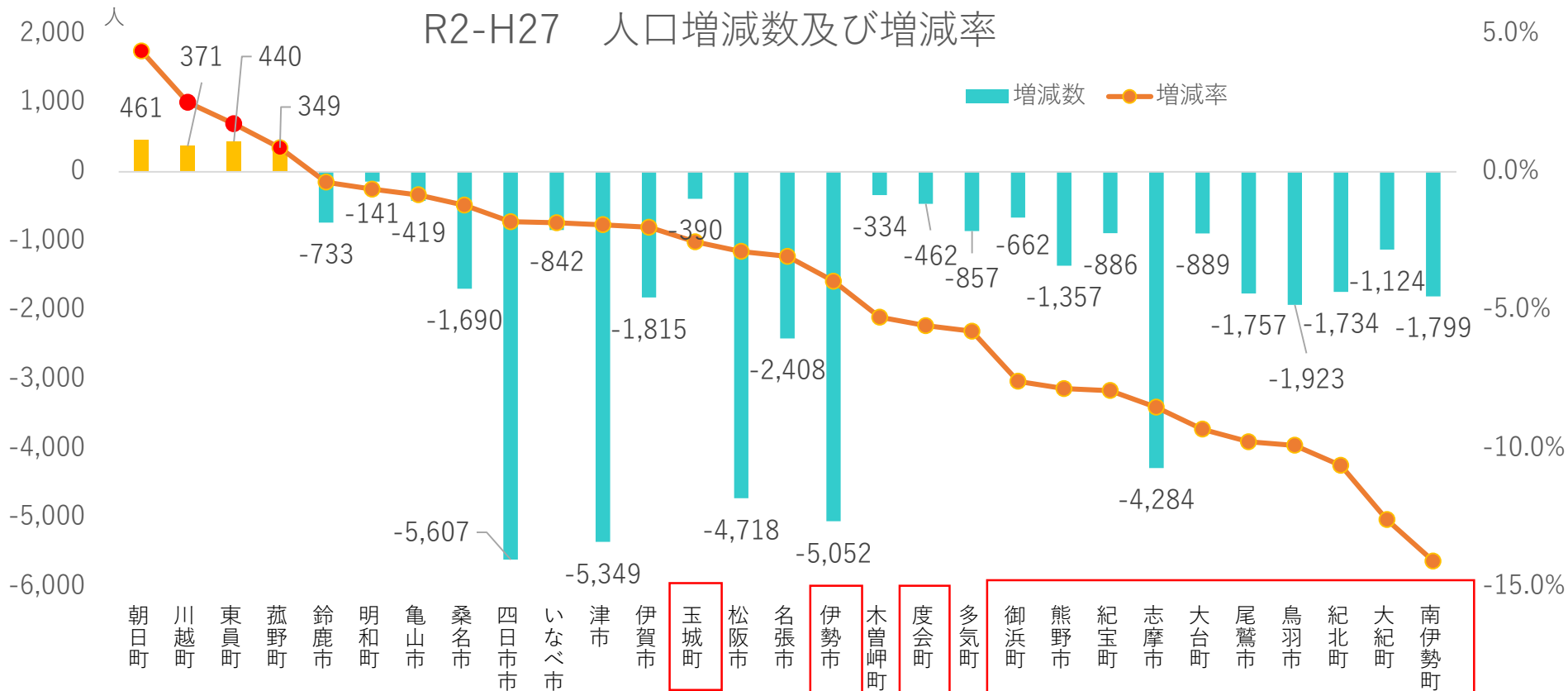
- ・北中部は平成24年以降、転出超過数が増加。
- ・南部は一定して2,000人弱の転出超過が継続。



総務省「住民基本台帳人口移動報告」による

3(1)人口減少の現状と課題(社会減) ～県内人口の市町別増減数・増減率～

・令和2(2020)年と平成27(2015)年の国勢調査結果から人口の増減を市町別に見ると、**25市町で減少**。特に南部地域の減少率が高い。



国勢調査結果により三重県作成

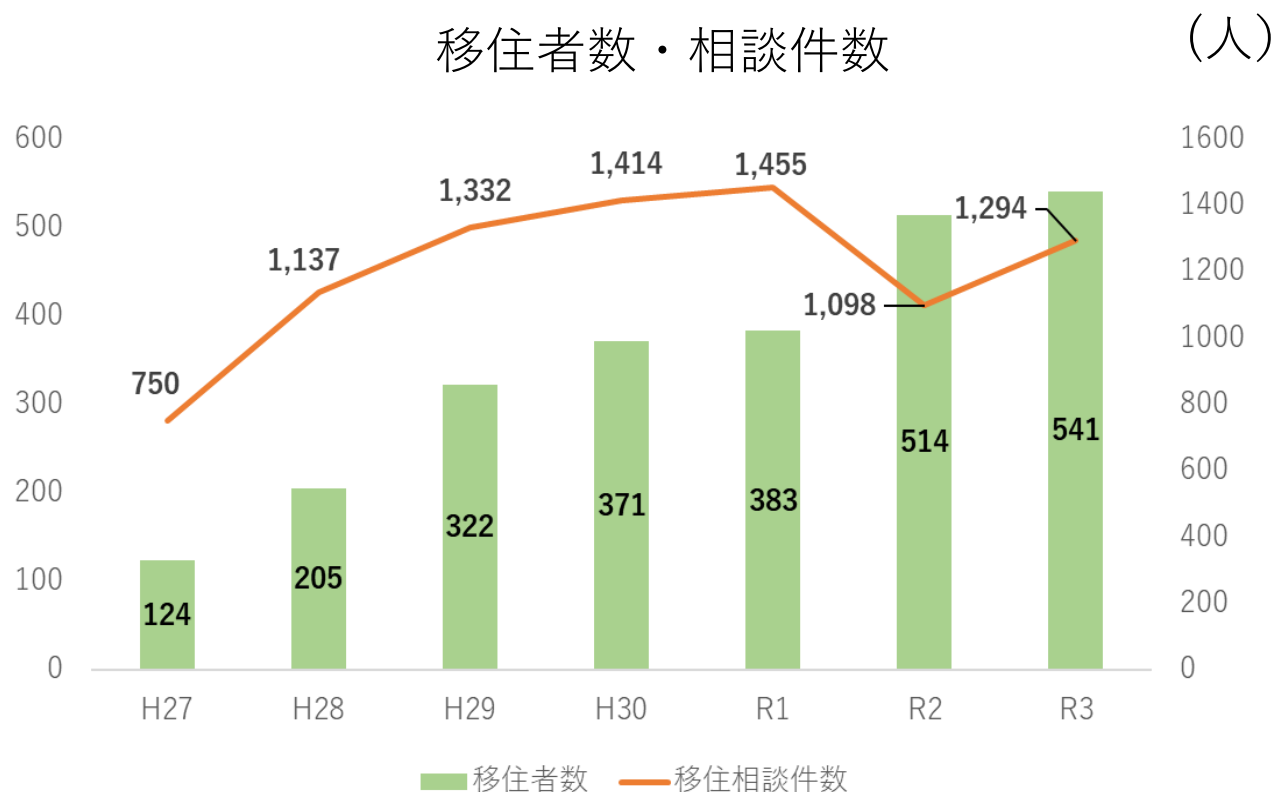
枠囲みは南部地域

3(1)人口減少の現状と課題(社会減) ～移住者数～

・移住者数は年々増加。コロナ禍において大都市圏に住む人々の関心が地方に向き始めていると推察

(参考：内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」:2020年6月から4回公表)

・移住相談件数については、年々増加していたが、令和2年は前年より約400件の減少。新型コロナにより、一時的な対面相談の休止や、首都圏等での大規模移住フェアの中止などが影響

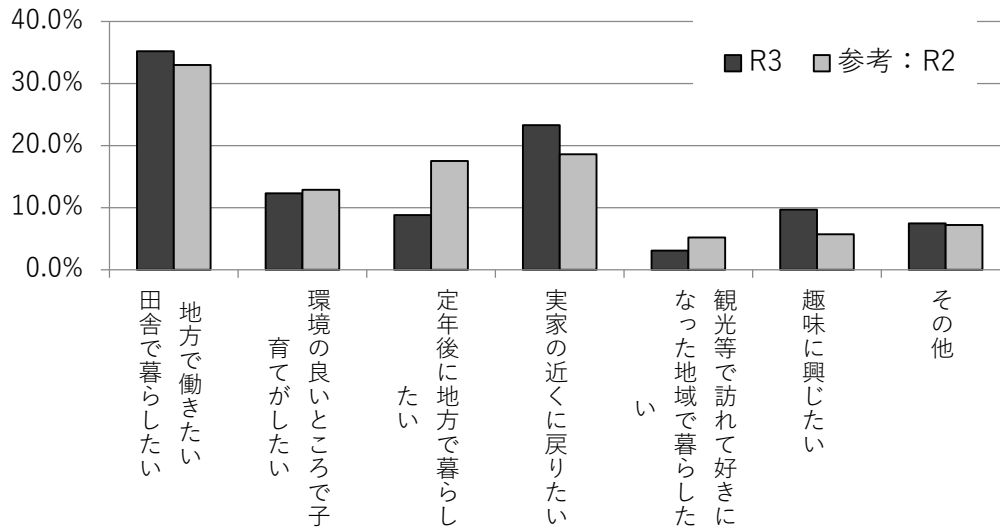


「三重県及び県内市町の施策を利用した県外からの移住者」、
「ええとこやんか三重 移住相談センター」相談実績 (三重県地域連携部)

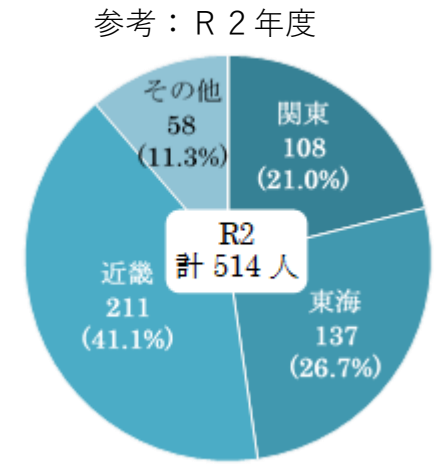
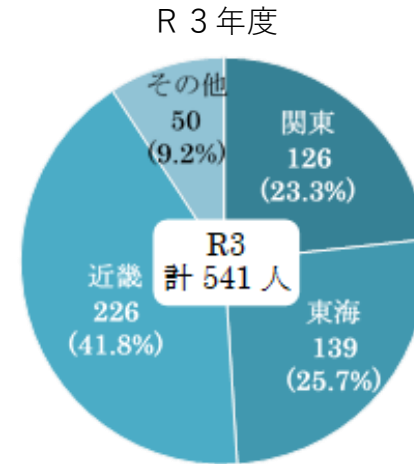
2 人口減少の現状と課題(社会減) ～移住相談のきっかけ～

- ・ 移住のきっかけは、「地方で働きたい」「実家の近くに帰りたい」の順に多い。
- ・ 近畿圏からの移住が4割、東海からが2割強、関東からが2割

令和3年度に県および市町の施策を利用した
 県外からの移住者へのアンケート結果
 (三重県地域連携部)



R 3	35.2%	12.3%	8.8%	23.3%	3.1%	9.7%	7.5%
R 2	33.0%	12.9%	17.5%	18.6%	5.2%	5.7%	7.2%



関東：東京、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川
 東海：愛知、岐阜、静岡
 近畿：京都、大阪、滋賀、兵庫、奈良、和歌山

3(1)人口減少の現状と課題(社会減) ~Uターン就職~

- ・三重県へのUターンを希望していた学生は、おおむね希望どおりになっていることが推察される。
- ・三重県の就職先を選ばなかった理由として、「希望する業種・職種の仕事がなかった」がもっとも多い。

三重県出身の学生の就職に関するアンケート結果

※首都圏、中京圏、関西圏の大学等に進学した学生500名へのアンケート

希望していた就職先

1位	三重県 33.8%	2位	愛知県、岐阜県 28.7%	3位	就職できれば、 どこでもよかった 12.3%
----	---------------------	----	------------------	----	------------------------------

就職する企業等の本社所在地

1位	三重県 36.6%	2位	愛知県 22.4%	3位	東京都 20.1%
----	---------------------	----	--------------	----	--------------

三重県の就職先を選ばなかった理由(複数回答可)

1位	希望する業種・職種の 仕事なかったから 22.8%	2位	規模の大きな企業に 就職したかったから 12.8%	3位	地元(出身地)や親元 を離れたかったから 10.0%
----	---------------------------------	----	---------------------------------	----	----------------------------------

4 現在の取組

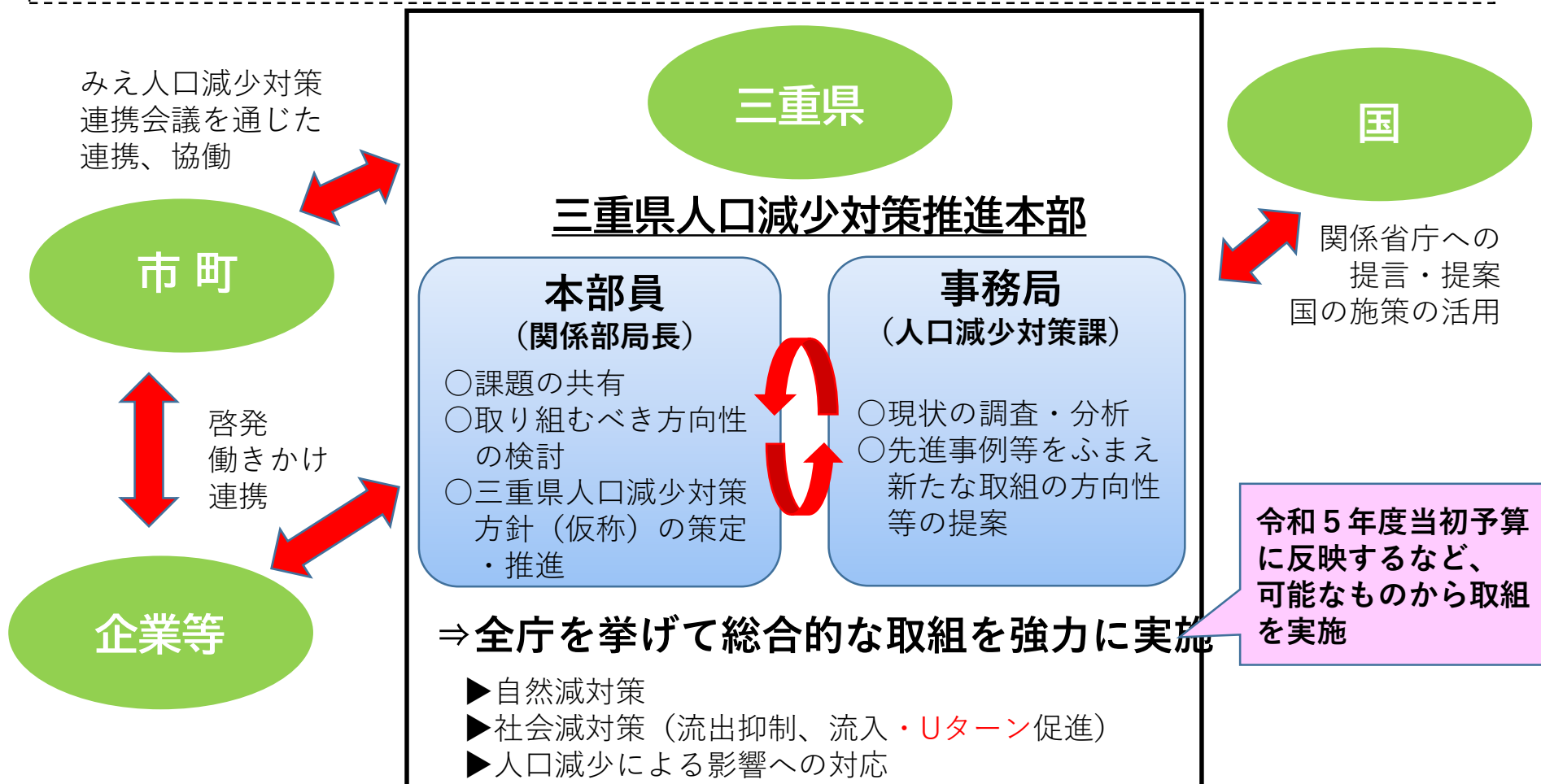
人口減少への総合的な対応の推進

- ・令和4年度から人口減少対策課を新設、市町や企業との連携強化を今後図り、推進体制を強化
- ・自然減対策、社会減対策を両輪として対策を推進
- ・人口減少に関する状況についてより詳細で広範な調査分析を実施し、より効果的な取組を推進

<p>自然減対策 →ライフステージごとに切れ目のない少子化対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出逢いの支援（みえ出逢いサポートセンターでの相談、婚活イベントの開催など） ・子育てしやすい環境づくり（保育所の整備や保育士確保など） ・<u>妊娠・出産の支援（県独自の不妊治療支援など）</u> ・<u>若者の所得向上（キャリアアップ研修など不本意非正規雇用者への支援など）</u> 				
<p>社会減対策</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="364 572 646 921"> <p>流出抑制対策 →定住促進</p> </td> <td data-bbox="646 572 1943 921"> <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業（スマート農林水産業の促進など） ・観光産業（裾野が広く雇用確保が期待できる産業としての観光振興など） ・中小企業や地場産業の振興（事業承継や第二創業への支援など） ・働く場の創出（スタートアップの育成・支援、研究開発施設を含む企業誘致、自動車・半導体・石油化学など主要産業の振興、県内再投資促進、グリーン・デジタル関連の投資促進など） ・<u>若者・女性にとって魅力のある働く場づくり（男性の育児休暇取得促進等の多様な働き方の推進、AI、ICTの活用による就労環境の整備など）</u> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="364 921 646 1146"> <p>流入・Uターン促進対策</p> </td> <td data-bbox="646 921 1943 1146"> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>県外学生の県内就業支援（県外の就職支援協定締結大学と連携した企業の情報発信など）</u> ・<u>移住相談窓口の充実（移住相談センターでの相談など）</u> ・三重の魅力・情報発信（三重テラスを核とした三重の魅力発信など） ・働く場の創出 [再掲] </td> </tr> </table>	<p>流出抑制対策 →定住促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業（スマート農林水産業の促進など） ・観光産業（裾野が広く雇用確保が期待できる産業としての観光振興など） ・中小企業や地場産業の振興（事業承継や第二創業への支援など） ・働く場の創出（スタートアップの育成・支援、研究開発施設を含む企業誘致、自動車・半導体・石油化学など主要産業の振興、県内再投資促進、グリーン・デジタル関連の投資促進など） ・<u>若者・女性にとって魅力のある働く場づくり（男性の育児休暇取得促進等の多様な働き方の推進、AI、ICTの活用による就労環境の整備など）</u> 	<p>流入・Uターン促進対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>県外学生の県内就業支援（県外の就職支援協定締結大学と連携した企業の情報発信など）</u> ・<u>移住相談窓口の充実（移住相談センターでの相談など）</u> ・三重の魅力・情報発信（三重テラスを核とした三重の魅力発信など） ・働く場の創出 [再掲]
<p>流出抑制対策 →定住促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業（スマート農林水産業の促進など） ・観光産業（裾野が広く雇用確保が期待できる産業としての観光振興など） ・中小企業や地場産業の振興（事業承継や第二創業への支援など） ・働く場の創出（スタートアップの育成・支援、研究開発施設を含む企業誘致、自動車・半導体・石油化学など主要産業の振興、県内再投資促進、グリーン・デジタル関連の投資促進など） ・<u>若者・女性にとって魅力のある働く場づくり（男性の育児休暇取得促進等の多様な働き方の推進、AI、ICTの活用による就労環境の整備など）</u> 				
<p>流入・Uターン促進対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>県外学生の県内就業支援（県外の就職支援協定締結大学と連携した企業の情報発信など）</u> ・<u>移住相談窓口の充実（移住相談センターでの相談など）</u> ・三重の魅力・情報発信（三重テラスを核とした三重の魅力発信など） ・働く場の創出 [再掲] 				
<p>人口減少による影響への対応 →交流人口、関係人口の拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光産業の振興（拠点滞在型観光の推進など） ・高齢者や学生等の移動手段の確保（公共交通機関の充実、自動運転バスやデマンドタクシーの導入検討など） ・<u>リニア開業効果の最大化や大規模イベントの活用（大阪・関西万博や神宮式年遷宮を契機とした情報発信など）</u> ・多様な働き方の促進（テレワーク、ワーケーションの促進など） 				

「三重県人口減少対策推進本部」について

- 県内人口は2020年（令和2年）国勢調査で約177万人と5年前から約4万6千人減少し、5年間の減少率は2.51%と過去最大
- 人口減少のスピードを緩やかにし、地域の課題に的確に対応していくことで、将来世代においても魅力ある地域であり続けるため、国内外の先進事例等も参考とし、自然減対策と社会減対策を両輪としたより効果的な取組を推進していく必要
- 国・市町、企業等と連携した人口減少対策を推進



検討の進め方について（スケジュール案）

令和4年

5月30日	第1回人口減少対策推進本部会議
	<ul style="list-style-type: none">・人口減少対策の推進について、体制やスケジュール等の説明・対策に向けた基本的な考え方等の確認
7月頃	第2回人口減少対策推進本部会議
	<ul style="list-style-type: none">・現状の調査や分析をふまえ、具体的な取組の方向性の確認
7～9月	令和5年度 重点事業の検討・調整【仮】
9月頃	第3回人口減少対策推進本部会議
	<ul style="list-style-type: none">・具体的な取組の確認・人口減少対策方針（仮称）（中間案）のとりまとめ
12月頃	第4回人口減少対策推進本部会議
	<ul style="list-style-type: none">・人口減少対策方針（仮称）（最終案）のとりまとめ